

指定管理者施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート(令和2年度事業分)

1 施設の概要

施設名	山梨県立あけぼの医療福祉センター成人寮	所管課	福祉保健部 障害福祉課
所在地	韮崎市旭町上條南割3251-1	設置年月日 (改築年月日等)	昭和48年4月1日
管理方式	社会福祉法人山梨県障害者援護協会		
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立障害者支援施設設置及び管理条例		
設置目的	身体障害者に必要な指導及び訓練を行い、自立した日常生活や社会参加を図るため。		
主な施設内容 (定員等)	<ul style="list-style-type: none"> ○敷地面積:9,060㎡ ○建築延べ面積:3,194.32㎡ ○建物の構造:鉄筋コンクリート造平屋建、鉄骨造平屋建2棟 ○施設の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由者更生施設棟(鉄筋コンクリート造平屋建)3,002.29㎡ ・温室(鉄骨造平屋建)110.25㎡ ・農作業保管庫・陶芸室(鉄骨造平屋建)81.78㎡ ○各障害福祉サービスの定員 <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護:45人 ・短期入所:15人 ・自立訓練(機能訓練):15人 ・施設入所支援:40人 		
主な業務内容	<ul style="list-style-type: none"> (1)施設等の維持保全に関する業務 <ul style="list-style-type: none"> ・施設及び設備器具の維持保全に関する業務を行う。 (2)利用者に対する障害福祉サービス業務 <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護、短期入所、自立訓練(機能訓練)及び施設入所支援に係る業務を行う。 		

2 類似施設・近隣施設

名称 施設内容 利用状況等	<ul style="list-style-type: none"> ・あゆみの家:自立訓練(通所 22人、夜間 20人)、短期入所(2人) ・梨の実寮:生活介護(52人)、就労移行支援(6人)、就労継続支援B型(12人)、施設入所支援(50人)、短期入所(6人) ・あさひワークホーム:生活介護(38人)、就労移行支援(8人)、就労継続支援B型(34人)、施設入所支援(40人)、短期入所(5人) ・育精福祉センター成人寮:生活介護(105人)、短期入所(9人)、施設入所支援(90人)
---------------------	--

3 利用状況

単位:人、%

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度 (目標値)
利用者数	生活介護	42	41	42	45
	短期入所	18	14	14	15
	自立訓練(機能訓練)	8	15	13	15
	施設入所支援	37	37	37	40
	利用者数合計	105	107	106	115
	目標値	115	115	115	115
	目標値設定の考え方及びその理由	定員を目標値とする			
	対平成30年度比		101.9%	101.0%	109.5%
利用率	91.3%	95.7%	93.0%	100.0%	

4 指定管理業務の収支状況

単位:円、%

		令和元年度 (実績値)	令和2年度 (計画値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (計画値)
収入	施設利用料	206,006,970	207,730,000	209,348,343	207,880,000
	指定管理者委託料				
	その他	5,932,018	450,000	7,184,102	370,000
	収入合計(A)	211,938,988	208,180,000	216,532,445	208,250,000
支出	人件費	143,479,040	142,670,000	139,217,589	142,850,000
	県への納付金				
	管理運営費	64,600,854	65,510,000	66,613,510	65,400,000
	うち外部委託費(B)	4,762,123	5,150,000	5,137,479	5,150,000
支出合計(C)	208,079,894	208,180,000	205,831,099	208,250,000	
収支差額(A-C)	3,859,094		10,701,346		
外部委託比率(B÷C)	2.3%	2.5%	2.5%	2.5%	
利用者一人当たりの経費	1,980,738.2	1,806,347.8	2,042,758.9	1,807,652.2	

5 利用者満足度(アンケート様式は別添のとおり)

実施方法等	調査対象者: 入所・通所利用者(日中事業:生活介護・自立訓練利用者)対象 調査方法: 聞き取り及び自己記入 調査期間: 令和3年3月15日～3月26日
-------	---

単位: %

調査項目	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
建物の使いやすさ	69.0%	23.0%	6.0%	2.0%
プライバシーや個人情報の保護	79.0%	21.0%		
食事	48.0%	31.0%	19.0%	2.0%
職員の対応の仕方	69.0%	25.0%	6.0%	
支援内容(訓練・活動以外のこと)	67.0%	29.0%	4.0%	
訓練・活動内容(活動・訓練・療法など)	65.0%	21.0%	8.0%	6.0%
施設全般の満足度	67.0%	29.0%	4.0%	

利用者の意見	<p>【施設・設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊トイレを広くしてほしい。 ・居室から洗濯室まで遠い。 <p>【食事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の量が少ない。 ・パンを増やしてほしい。 <p>【職員の対応の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員によって対応が違う。 ・トイレが近いので、対応回数が多く申し訳ない。 ・トイレに行きたいのに待たされることがある。
利用者の意見への対応	<p>【施設・設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設設備については構造上の制約があり、改善が困難なものもあるが、可能な限り利用者の意見を反映できるように努めている。 <p>【食事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の嗜好の違いや病気、障害の内容が異なるため、一概に改善することは難しいが、年4回実施される給食委員会等で直接利用者の意見をあげばの医療福祉センター栄養士や給食業者に伝えている。 <p>【職員の対応の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく希望にこたえるようにすることとし、例えば、利用者からの要望が多いパンの提供回数を増やす、デザートの変種を豊かにする、麺類は伸びるのを防ぐため汁(スープ)と麺を分けておき、食べる直前に合わせる等の対応を行っている。 ・接遇向上委員会などにより利用者対応の向上に努めている。

6 評価結果

	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	サービスの提供が円滑に行われるよう建物・施設周辺を管理担当職員が主体となって、施設設備の保守管理について所定の点検簿により定期に実施した。 また、専門的なメンテナンスは業者に依頼し、異常を確認したときには必要な措置を行った。	新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業により、感染発生時対応・衛生用品保管等に使用できる多機能型簡易居室の設置を行ったほか、設備等の修繕・更新により適正な維持管理がなされている。
運営業務	利用者及び家族に対し当該事業の基本方針及び支援内容をわかりやすく説明するとともに、目標達成に向けた個別支援計画を作成し、支援を行った。 また、新たに水害に対する避難場所として、あけぼの医療福祉センター2階部分を設定し、避難確保計画を立てたが、コロナにより訓練実施はできなかった。	個別施設計画に基づき適正に支援が行われている。 感染対策に向けた十分な対策を取った上で、実施することができなかった避難訓練や各種イベント、グループ活動等の実施に向けた検討を行うこと。
利用状況	HPやSNSを活用した広報を行ってきたところ、施設利用の問い合わせや利用契約に結びつくことも増加してきている。 生活介護・施設入所も高い利用率を保てるように、1年半の利用期限により利用者が頻繁に入れ替わる自立訓練事業は、理学療法士の常勤化やリハビリ機器の導入による訓練メニューの充実により利用者数は比較的安定している。すべての事業について引き続き利用者確保に努めていく。	HPやブログ等が随時更新され、積極的に情報発信が行われている。 利用率も高い水準で維持されているので、引き続き利用者の確保に努めること。
収支状況	収入については、利用率の確保とコロナ対策補助金等の活用により昨年度に比べ増収となった。 支出は、社会福祉充実計画の職員体制の強化事業及び介護支援機器等の導入事業の執行をしつつ横ばいに抑えられたが、コロナ対策の多機能型簡易居室や衛生用品などを準備したことからその分増額となった。 一方、嘱託医の報酬、施設賠償責任保険料及び建築物法定点検委託料、さらにガソリンの契約方法の見直しなどにより、コスト削減に取り組んだ。	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用者数は減少したが、利用率の確保等により、収入額及び収支差額とも増加した。 新型コロナウイルス感染症の影響は当面継続すると見込まれるが、引き続き各種契約等の見直しや効率化等も行いつつ、利用者の確保にも努めていくこと。
自主事業	自主事業である市町村が行う日中一時支援事業の提供について、施設に慣れる目的で使用される方がいたが、生活介護事業で同類のサービスを提供でき、慣れてきた場合は宿泊もできる短期入所事業へ移行してきた。	市町村と連携を図り、事業計画書に基づいて、積極的に日中一時支援事業の提供に努めること。
利用者満足度	施設全般の満足度で、96%の利用者から「満足」「どちらかと言えば満足」との評価をいただいた一方で、4%の利用者が何らかの不満を感じていることから、アンケート調査の実施や利用者への積極的な声かけなどにより、生の要望を集め、満足度の維持・向上に努めていく。	全体的な満足度は高くなっている。また、利用者からの要望に応え、パンの回数を増やしたり、提供の仕方を工夫する等の対応を取っている。 引き続き、改善可能な要望への対応を検討していくこと。

<p>運営目標の達成状況</p>	<p>施設の管理運営方針等に則って、実施事業である自立訓練(機能訓練)事業、生活介護事業、施設入所事業及び短期入所事業において、利用者に安心・安全でより質の高いサービスを提供した。</p> <p>自立訓練事業では、脳血管障害を有する障害者は介護保険サービスが優先されるため、利用者の確保が難しく、平成30年以降、定員15名のところ月平均10名を下回るときもあったが、利用者確保に向け、関係機関への働きかけを強化した結果、令和2年度は全事業合計で90%以上となっている定員を満たすことができた。利用期限が1年6ヵ月と限定されているため、常に定員を満たすことは難しいが、利用者確保に向け、引き続き関係機関との連携を密にしていこう。「社会福祉充実計画」における職員体制の強化事業により、理学・作業・言語療法士が中心となり、専門的な技術向上を目指すとともに、歩行器等利用者の状況に合わせたリハビリ機器の導入により自立訓練メニューの充実を図り、さらなるサービスの向上に努めた。</p> <p>生活介護事業では、利用者の高齢化・重度化による機能低下や医療の関わりが増加するとともに、支援ニーズが複雑化・多様化する中、利用者の個々の状況に応じた個別対応に努めながら、活動に参加できない利用者に短時間でも活動に参加しようと呼掛けを行ってきた。新型コロナウイルス感染防止対策として、外部講師による活動もやむを得ず中止する時期があった。保護者や地域の方々との交流を目的とした行事等も施設内での代替行事に見直すなど創意工夫を凝らしたメニューを提供し、利用者の精神的安定を図った。</p> <p>医務関係では、基礎疾患を抱えている利用者が多いことから、日常生活動作や体調の変化の早期発見に努め、円滑な受診行動をとることで適切な治療を受けることができ、改めて日々の利用者や家族との関わり的重要性を確認できた。</p> <p>管理面では、利用者が単独で離床する際の転倒が多くなったことから、国の介護ロボット補助金事業を活用し、センサー付き介護ベッドや利用者支援時に職員が装着するマッスルスーツを購入した。センサー付きベッドは離床時にはナースコールに連動し、職員が支援できるように、マッスルスーツは利用者の移乗時の安全や職員の介護負担軽減に繋がった。</p> <p>また、感染症対策に当たって、国庫補助金を積極的に活用し、衛生用品購入及び保管等に柔軟に活用できる簡易居室の整備に取り組んだ。</p> <p>感染拡大している新型コロナウイルス感染症予防対策では、国や県の指導及び感染状況を踏まえ、利用者並びに職員の検温など健康観察の強化、活動内容の変更や面会・外出・来所者の制限等を機会あるごとに見直ししながら感染予防対策を継続している。</p> <p>今年度は、指定管理期間の最終年度にあたり、県からこれまでの指定管理者として一定の評価を受け、次年度以降の指定管理者候補者として選定された。所定の手続きに基づき事業計画書等を提出、県議会において議決を経て次年度以降4年間、指定管理者として管理運営に携わるようになった。</p>
<p>施設所管課による総合的な評価及び指導事項</p>	<p>施設の維持管理については、不具合への対応や等を速やかに行い、施設管理・運營業務等について、条例、協定等に基づき適正に履行している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の訓練やイベント等の中止を余儀なくされ、計画どおりに事業を進めるのが困難となった。</p> <p>利用者の満足度は高くなっており、質の高いサービスが提供されている。</p> <p>引き続き感染対策を適切に行うとともに、利用者のニーズを把握し、活動に反映させていくこと。</p>
<p>施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況</p>	<p>条例、協定等に基づき適正な執行を行い、施設・設備については利用者の安全や利便性に留意し、随時、修繕を実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業により、感染発生時対応・衛生用品保管等に使用できる多機能型簡易居室の設置を行い、感染対策の強化を図った。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、納涼会等のイベントや外出を伴う訓練等を中止せざるを得なかった。</p> <p>利用者満足度調査の結果を踏まえ、利用者個々のニーズに対応するよう努めた。</p>

7 管理体制(組織図)

令和2年4月1日現在

